

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高校生としてふさわしい「知・徳・体」のバランスの取れた人格形成に努めながら、より一層の学力向上に取り組み、生徒一人ひとりの進路希望の実現につながる教育をめざす。

1. 生徒が安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現
2. 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

2 中期的目標

令和3年に80周年を迎えた本校のこれまでの伝統を継承し、府立高校としての発展と、「知・徳・体」のバランスの取れた人格形成に努めながら、より一層の学力向上に取り組み、生徒一人ひとりの進路希望の実現につながる教育をめざす。

1 生徒が安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現

- (1) いじめを絶対に許さない学校の雰囲気づくりに取り組む。
 - ・いじめを絶対に許さない学校の雰囲気づくりに取り組む。特に、SNSによる嫌がらせ行為などに対してしっかりと指導する。
- (2) 規範意識を高め、基本的な生活習慣の定着をはかる。
 - ・安全教育を推進し、交通マナー・事故防止・自己防衛などの意識向上に取り組む。
 - ・登校時間や学校生活におけるさまざまな活動時間の厳守に取り組む。
 - ・校則の遵守と規範意識の向上に取り組む。
 - ・学校教育自己診断において①「本校の学校生活で基本的な生活習慣を身につけられる」R7には（生徒）の指数83%以上とする。②「遅刻指導など、基本的な生活習慣が身に付けられるような指導がされている」（保護者）の指数を87%以上とする。[R2 ①81%②89% R3 ①80%②87% R4 ①85%②85%]
- (3) 相互尊重の精神のもとに、責任感をもって自律的に行動する生徒を育成する。
 - ・防災・減災教育を推進することで、非常変災の際に自らが取るべき態度と行動を身につける。
- (4) 互いの人権を尊重し、違いを認め合う心を養う。
 - ・人権を尊重し、違いを認め合う心を養う。
- (5) 生徒会・各種委員会活動をさらに発展させ、学校集団の発展をはかる。
 - ・キャリア教育を推進する。
 - ・生徒会・各種委員会活動の充実をはかる。
 - ・伝統と文化を尊重する態度、創造性を涵養する。
 - ・学校教育自己診断アンケートにおいて「学校は生徒会を中心に、部活動や学校行事を活性化するように工夫している」の肯定的回答をR7には85%以上とする。[R2 73.9%、R3 71.0%、R4 73%]

2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

- (1) 組織的な校務運営を行いながら、指導内容や方法を工夫改善し、生徒の基礎学力の定着と応用力・実践力の充実・向上に取り組む。「わかる授業、充実した授業」のために、授業研究や幅広い実践的な研修を実施し、学校全体の教育力向上をめざす。
 - ・教職員一人ひとりが授業実践についての研究・改善を進める。授業公開を行い、その目的達成のきっかけとする。
 - ・主体性を持って学習する習慣を身につけるため土曜・放課後自習室を開催する。
 - ・学習のPDCAサイクルを意識し探究する意欲をもつ主体的な学習者を育てる。
 - ・授業アンケート「先生はよりよい授業をしようとする意欲や熱意をもっている。」の回答をR6には3.6以上とする。[R1 ①3.50, R2 3.57, R3 3.56]
- (2) 進路意識の高揚をはかり、それぞれの進路希望の実現をめざす。
 - ・補習授業・個別指導・自習環境の整備など、進路希望実現への支援の充実をはかる。
 - ・生徒が自分にふさわしい進路目標を設定できるよう、様々な援助・支援を行う。
 - ・関関同立及び国公立大学の延べ合格者数が100人以上となるよう継続して指導を行う。[R2 81人、R3 124人、R4 85人]
- (3) 国際交流活動を推進する。
 - ・オーストラリアの姉妹校ベイビュー・カレッジとの国際交流事業のさらなる充実をはかり、国際理解を深めるとともに、英語科の魅力を校外に発信する。
- (4) 自らの健康に関心をもち、自己管理能力を高め、生きる力を身につけさせる。
 - ・学校行事・部活動充実のための環境・条件整備を進める。
 - ・自らの健康に関心をもち、自己管理能力を高め、生きる力を身につける。
 - ・コロナ禍で精神面の不安や悩みを抱える生徒を把握し、支援する。
 - ・支援を必要とする生徒の実態を把握し、保護者・担任との連携を図りながら個別の支援を考えていく。
 - ・学校教育自己診断において「学校の先生は生徒の心身の様々な悩みを聞き、適切に答えてくれる」の肯定的回答をR6には79%にする。[R2 69.5%、R3 69.5%、R4 77%,]
- (5) 生徒の希望する進路の実現
 - ・大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンス及び個別面談を行う。
- (6) 専門科の取り組み

【英語科の教育活動の充実】

 - ・総合的な英語の運用能力の育成をめざす。資格試験取得を促し、R7にはCEFR B1（英検2級など）レベル以上の取得者を45%、CEFR B2（英検準1級など）レベル以上の取得者を7%にする。[R4 CEFR B1以上取得者40%、B2以上6%]
 - ・英語の運用能力の向上により、コミュニケーション能力を育成すると共に、「英語で」多角的に異文化理解・国際問題・時事問題などを扱うことで幅広い知識・考える力・柔軟な国際感覚・多面的な視野を身につけさせる。
 - ・以上の取組から、生徒たちの進路実現を支援していき、推薦・総合選抜も含めて国公立及び難関私立大学の延べ合格者数をR6には55人にする。

【理数科の教育活動の充実】

 - ・理数科目に関する知識を身につけ、技術として実験・発表に扱うことのできる生徒を育成する。
- (7) リーディングGIGAハイスクール指定校として
 - ・情報の授業や探Q（総合的な探究の時間）を中心に生徒1人1台端末の積極的な利活用をめざす。
 - ・出席停止生徒や臨時休業の際にオンラインを活用した学びの保障を100%実施する。
 - ・学校行事や部活動での生徒1人1台端末の有効的な利活用をめざす。
 - ・学校教育自己診断アンケートにおいて「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の肯定的回答をR7には80%以上にする。[R4年度より実施]

<p>3 チーム「いちりつ」としての課題解決にあたる教員集団の確立</p> <p>(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立する。 <p>(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【全般を通じて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法に ICT や 1 人 1 台端末を活用した結果、生徒・保護者・教員すべての対象において回答数が増加した。 ・生徒 24 項目中 22、保護者 24 項目中 14、教員 30 項目中 21 の項目で前年より肯定率が上昇した。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業」・「補習体制」についての肯定率は生徒・保護者・教員いずれも概ね 80%を超えるが、家庭学習については 60%台となり、今後改善や対策が必要。 <p>【生徒会行事・部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれの項目についても 80~90%の肯定率で昨年比 5~10 ポイントの上昇が見られる。コロナ後の日常が戻ったことの反映も一因と考えられる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者ともに「学校が楽しい」「先生に相談できる」等の肯定率が高く、学校への信頼が伺える、 ・生徒指導の方針への納得は生徒 62%、保護者 77%と上昇するも、教員の指数は 86%と乖離が見られ、更なる配慮や丁寧な指導が求められる。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP の活用について保護者 38%、教員は 80%と乖離が見られ、今後の広報活動に工夫が必要。 ・校舎等の施設設備についての肯定率は生徒 65%、保護者 51%、教員 38%といずれも極めて低く、長期的な観点での支援が求められる。 	<p>第 1 回 令和 5 年 7 月 4 日 (火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学校の取組については評価しており、府への移管 2 年目となった今年度についても各種の取組を進めてほしい。 ・高大連携については専門学科だけでなく学校全体で今後も更に進めてもらいたい。 <p>第 2 回 令和 5 年 11 月 30 日 (木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て、学校行事等が従前どおりに行われるようになり、生徒にとっても保護者にとってもよかった。 ・国際交流について、オーストラリアの姉妹校との連携をはじめ、今後も継続的に実施してもらいたい。 ・地域の小学校や幼稚園保育所との連携は子どもだけでなく生徒にとって良い働きかけとなるので、ぜひ継続して実施してほしい。 <p>第 3 回 令和 6 年 2 月 26 日 (月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断 (保護者)「生活習慣を身に付ける」という項目は目標を下回っているが、日々の先生方の熱心な指導は近隣住民もよく見て知っており、今後目標設定を適切に行い、指導の継続をお願いしたい。 ・課題研究の外部発表など取組みが着実に進んでいる。今後も探究的な学びを深め、学習のモチベーションアップにより、上昇傾向の大学進学実績を一層伸ばしてもらいたい。 ・ICT の活用についてはさらに推進してもらいたい。 ・学校経営計画については承認した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 生徒が安心して成長できる安全な社会 (学校・家庭・地域) の実現	(1) いじめを絶対に許さない学校の雰囲気づくりに取り組む。	ア いじめ未然防止の推進のために、各学年に対してスマホ・SNS に関する講話および人権講話を開催する。また、必要に応じて集会などを設ける。また、掲示物で常日頃から注意喚起をおこなう。	ア スマホ・SNS に関する講話および人権講話を開催する。各学年 1 回開催する。 [R4 3回]	ア スマホ・SNS に関する講話を 5 月に各学年に対し行った [3 回]。次年度も継続して実施。(○)
	(2) 規範意識を高め、基本的な生活習慣の定着をはかる。	<p>ア 安全教育を推進し、交通マナー・事故防止・歩行者という立場も含めた自己防衛および安全配慮などの意識向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講話または自転車通学者向けの講話等を年 3 回実施する。 ・生徒の事故状況についての情報を共有する。また、安全意識向上のために掲示物を活用し、再発防止に努める。 ・自転車通学者には、自転車保険の加入・雨天時のカッパの着用・交通ルールの遵守を徹底させる。 <p>イ けじめのついた有意義な学校生活を送らせるために時間を守る意識を高め、登校時間や学校生活におけるさまざまな活動時間の厳守に取り組む。また、担任・学年・健康指導部と連携し、生徒の状況を把握するとともに、それぞれに応じた適切な指導をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各月ごとの遅刻統計をもとに、遅刻傾向の分析や対策を全職員で共有し、遅刻防止の啓発活動をおこなう。 ・遅刻の多い傾向にある生徒に対して、タイムマネジメントや体調管理についての指導を、担任・学年団・家庭との連携を強化し粘り強くおこなう。 ・年 3 回学期ごとに遅刻防止週間を設定し、指導委員の主体性を生かした遅刻防止の啓発活動を実施する。また、遅刻が少ないクラスに対して表彰等をおこなう。 <p>ウ あいさつ・服装・頭髪・スマートフォン等の指導による</p>	<p>ア 交通安全講話または自転車通学者向けの講話等を年 3 回実施する。 [R4 1回]</p> <p>イ 遅刻者を 1 日平均 5 人以下とする。 [R4 5.5 人]</p> <p>ウ 学校教育自己診断において</p>	<p>ア 自転車通学者説明会、交通安全講話、安全意識の向上に関する講話を 3 回行った。次年度も継続して実施する。(○)</p> <p>イ 指導対象者に対して教員間で遅刻統計を共有し、通常の指導に加え、遅刻防止週間での指導を進めたことから 1 日平均 4.9 人となり、目標を達成した。(○)</p> <p>ウ 学校教育自己診断①「基本的な生活習慣</p>

府立いちりつ高等学校

		り、校則の遵守と規範意識の向上に取り組む。 ・講話等を通じて、校則や規律を守ることの大切さを理解させる。	①「本校の学校生活で基本的な生活習慣を身につけられる」(生徒)の指数を83%以上とする。②「遅刻指導など、基本的な生活習慣が身に付けられるような指導がされている」(保護者)の指数を96以上とする。[R4 ① 85% ② 95%]	を身につけられる」(生徒)の指数89.7%となり目標を達成。(◎) 「遅刻指導など、基本的な生活習慣が身に付けられるような指導がされている」(保護者)の指数は93.7%となり、やや目標を下回ったが、目標設定を再検討し、指導の継続を図る。(△)
	(3) 相互尊重の精神のもとに、責任感をもって自律的に行動する生徒を育成する。	ア 避難訓練を実施することで、自らの危険を回避するために主体的に行動する態度を育成する。防災・減災教育を推進することで、非常変災時には自らが支援者として行動し社会に貢献する態度を育成する。	ア 1学期に総合避難訓練を1回実施する。・2学期に大阪880万人訓練に参加し、身を守る初期行動訓練を行う。[R4 2回]	ア 年間を通じ総合避難訓練、地震避難訓練を実施、大阪880万人訓練においては緊急メールの確認を行う形態で合計3回実施した。今後も安全に向けた活動に取り組む。(◎)
	(4) お互いの人権を尊重し、違いを認め合う心を養う。	ア 様々な人権問題について正しい知識を身につけ、各種の行事・LHR等を通じてお互いの人権を尊重し、協力する態度・意識を育てる。生徒・保護者・教職員対象の講演会・研修等各種取組を進める。	ア 生徒・保護者・教職員対象の各種取組を進める。講演会等を年1回以上実施する。[R4 6回]	ア 生徒対象講演4回、教員対象講演会2回、生徒・保護者・教員対象の演劇公演1回を実施。指標については再検討し、今後も人権教育の推進を図る。(○)
	(5) 生徒会・各種委員会活動をさらに発展させ、学校集団の発展をはかる。	ア シェアド・リーダーシップの姿勢で協働できるいちりつ生の育成を支援する。状況が許せば近隣の保育園・幼稚園・小学校で2年生を対象としたインターンシップを実施する。キャリア教育(生徒のロールモデル)、高大連携の一環として関西大学生のスクールインターンシップを受け入れる。 イ 学校行事や各種委員会活動を通じて、自分で考え行動を起こすことができる生徒集団を育成する。部活動等の集団活動を通じて、規範意識や他者と協力することの大切さを理解させるとともに、他者との違いを理解・尊重できる生徒を育てる。 ウ 「高校生のための大塚国際美術館鑑賞ツアー」等大阪府の行事を活用し、生徒を優れた芸術鑑賞に導くことで、伝統と文化を尊重する心豊かな創造者となるよう涵養する。	ア 生徒の変容をアンケートや聞き取り調査により確認する。内容理解度を70%以上とする。[R3 55.2% R4 インターンシップは実施できなかった] イ 学校教育自己診断において「学校は生徒会を中心に、部活動や学校行事を活性化するように工夫している」の指数を72%以上とする。[R3 71.0%] ウ 芸術鑑賞会を年1回以上実施する。[R4 校内1回] (「文楽鑑賞教室」「歌舞伎鑑賞授業」については実施されないか府立高校が対象外のため目標の変更を行った。)また、「高校生のための大塚国際美術館鑑賞ツアー」等も活用する。	ア 1～3年生希望者が夏季休業期間中に保育士体験及び看護師体験に参加した。また関西大学生1名のインターンシップ受け入れを行った。生徒アンケートによる肯定率は85%であった。(◎) イ 体育祭や文化祭に関する生徒アンケートでの肯定率はそれぞれ88.2%、92.3%となりコロナ以前の「例年」「通常」の行事を知らない中、自分たちで考えながら他者と協働することに達成感や喜びを見出したことが伺えた。 学校教育自己診断「生徒会を中心に、部活動や学校行事を活性化に工夫」の肯定的は80.4%と目標を上回った。(◎) ウ 芸術鑑賞として演劇鑑賞を実施した(7/19)。次年度以降はより芸術鑑賞に適した会場に変更し、内容の充実を図る。(○)
2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上	(1) 組織的な校務運営を行いながら、指導内容や方法を工夫改善し、生徒の基礎学力の定着と応用力・実践力の充実・向上に取り組む。「わかる授業、充実した授業」のために、授業研究や幅広い実践的な研修を実施し、学校全体の教育力向上をめざす。	ア 個々の生徒の進路希望実現のために必要な教育課程の編成、改善に努める。生徒が選択科目を適切に選択できるよう支援するとともに、個々の学習発達段階に応じた授業・補習の実施をはかる。 ・各科目の教科内容、学習目標、評価の指針をもとに教科指導を行い、その実態をもとに改善点を検討する。 イ 土曜自習室を開催することで、主体性を持って学習に取り組む態度を育成する。 放課後自習室に参加し学習することで、日々の家庭での学習習慣に繋げていく。	ア 補習講座時間数200時間以上を確保する。[R4 夏季補習80分150回の補習、定期考査に向けての補習、論文指導、英検対策指導等により200時間以上を確保] イ 学校教育自己診断において、①「土曜自習室を利用したこと」が「ある」と答えた生徒の割合を3学年平均で20%以上にする。また、②「補習体制や自習室の開設などで生徒の学力向上に努めている」に「そう思う」「思う時もある」と答えた保護者の割合を3学年とも80%以上にする。[R4 ① 23.3%② 85.0%]	ア 夏期補習80分×107回の補習を実施した。その他、定期考査へ向けての補習や大学別の補習、面接指導(150時間以上)、論文指導等を継続して行っており、200時間以上を達成した。(◎) イ 土曜自習室については働き方改革の観点から規模を縮小、2学期以降3回実施のみのため、学校教育自己診断での質問項目から除外、次年度以降の実施形態を見直すこととした。(一) 放課後自習室は継続して実施しており「補習体制や自習室開設など学力向上に努めている」の指数は目標を達した。 [1年81%、2年80%、3年86%](○)

府立いちりつ高等学校

	ウ 主体的・対話的で深い学びを促す授業と探究する意欲を育成する授業力の向上をめざして、学習環境を改善(学校支援クラウドサービスの活用推進等)し、研修会を実施する。研修は学習習慣の定着、定期考査・実力テストと連動した学習に向けて等の内容とし、外部講師より具体的な活用方法の研修会を企画し実施する。	ウ 授業アンケート①「先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている。先生が与える教材や課題の量は自分にとって適切である。」と②「授業を受けて知識や技能が身に付いたと感じている。」の上昇をめざす。[R4①3.38 ②3.30]	ウ 授業改善に関する研修を定期考査毎に、学習支援クラウドサービスに関する活用研修(6/29)は教員の活用習熟度別に実施。今後も授業改善に向け取り組みを継続する。授業アンケートの指数は目標を上回った。[①3.43 ②3.33] (◎)
(2) 進路意識の高揚をはかり、それぞれの進路希望の実現をめざす。	ア 早朝・放課後自習室を開設することにより生徒の学習機会の支援を行う。 イ 生徒自らが自己の興味・関心や進学希望に応じた学習課題を選択できるよう、適切なプログラムを設定し、生徒各自の主体的な学習活動をうながす。	ア 自習学習時間を年間250時間以上確保する。[R3 259時間] イ 学校教育自己診断において「自分の希望する講座が開講されている」の指数を75%以上とする。[R4 74.6%]	ア 早朝・放課後及び長期休業中に自習室として年間260時間を開放した。次年度も継続して行う。(○) イ 新カリにより開講講座数が増加した。学校教育自己診断「自分の希望する講座が開講されている」の指数は目標を上回った。[84.3%] (◎)
(3) 国際交流活動を推進する。	ア 英検等外部資格試験の受験者を増やし、国際社会で通用する英語力をつけさせる。オーストラリアのベビュー・カレッジとの国際交流を推進する。	ア リモートも含め国際交流を年1回以上実施する。[R4 3回] また、英語資格試験の年間受験者数を300名以上とする。[R4 英検受験者 371名]	ア 姉妹校訪問団受け入れ(6/18~25)及びオーストラリア研修旅行((8/4~13)を実施した。(○) 英語資格試験の年間受験者数は315名となり、目標を達成した。(○)
(4) 自らの健康に関心を持ち、自己管理能力を高め、生きる力を身につけさせる。	ア 新型コロナウイルスの感染対策を徹底して安全に部活動を行うことができるよう、代表者会議や顧問会議において情報共有を行い、学校全体で部活動をサポートする。生徒会本部役員と生徒会指導部教員の連携を高め、円滑な行事進行をめざす。 イ 自らの健康に関心を持ち、自己管理能力を高め、生きる力を身につける。・健康的な生活習慣を身につけるとともに、生涯を通じて自らの健康を心身ともに適切に管理し、改善していく資質や能力を育成する。 ウ コロナ禍で精神面の不安や悩みを抱える生徒を把握し、保護者・学年・スクールカウンセラーとの連携を取りながら適切に対応する。 エ 支援を必要とする生徒の実態を把握し、保護者・担任との連携を図りながら個別の支援を考えていく。	ア 学校教育自己診断において「本校の部活動は活発だ」の指数を80%以上とする。[R4 84.0%] イ 学校教育自己診断において「学校の先生は、生徒の心身の様々な悩みを聞き、適切に答えてくれる」の指数を77%以上とする。[R4 76.6%] ウ 学校教育自己診断において「スクールカウンセラーが定期的に来校していることを知っている」の指数を70%以上とする。[R4 61.7%] エ 特別支援委員会を年3回以上開催する。[R4 6回]	ア 学校教育自己診断「本校の部活動は活発だ」の肯定率は90.5%となり、目標を上回っているが、今後も学校全体で部活動へのサポートを図る。(◎) イ 学校教育自己診断「生徒の心身の様々な悩みを聞き、適切に答えてくれる」の肯定率は78.0%となった。今後も継続してサポートする。(○) ウ 学校教育自己診断の質問項目を見直したため同質問は実施しなかった(一)。ただし、同内容を測る指標として学校自己診断「生徒の健康や安全が守られる指導や体制がとられている」の項目肯定率は86.4%であり、対応は適切と判断する。(○) エ 年間を通じて9回実施。今後も個別の支援を継続する。(◎)
(5) 生徒の希望する進路の実現に向けて、指導充実させる。	ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンス及び個別面談を行う。	ア 学校教育自己診断において「学校には、生徒の必要としている進路情報があり、積極的に活用できる様になっている」の指数を75%以上とする。[R4 89.2%]	ア 各学年とも興味・関心に応じた個別ガイダンスや外部講師による進路講演会を実施。新課程入試となる2年生には対策の説明会を9月に、教員に対し新課程入試に係る研修10月に実施。学校教育自己診断「必要としている進路情報があり、積極的に活用できる」の指数は85.8%であり目標は達成できた。(◎)

府立いちりつ高等学校

	(6) 専門科の取組み。【英語科の教育活動の充実】	<p>ア 総合的な英語の運用能力の育成をめざし、資格試験取得を促す。</p> <p>イ 外部講師を活用し、英語の運用能力の向上により、コミュニケーション能力を育成すると共に、「英語で」多角的に異文化理解・国際問題・時事問題などを扱うことで幅広い知識・考える力・柔軟な国際感覚・多面的な視野を身につけさせる。</p> <p>ウ 以上の取組から、生徒たちの進路実現を支援していき、推薦・総合選抜も含めて国公立及び難関私立大学の延べ合格者数の増加をめざす。</p>	<p>ア 指標として資格試験取得を促し、R5にはCEFR B1(英検2級など)レベル以上の取得者を42%、CEFR B2(英検準1級など)レベル以上の取得者を6.3%にする。 [R4 CEFR B1以上取得者40%、B2以上6%]</p> <p>イ 外部講師を招聘し、英語科の生徒対象の講演会を実施する。[年1回]</p> <p>ウ 推薦・総合選抜も含めて国公立及び難関私立大学の延べ合格者数をR5には53人にする。[R3 51人]</p>	<p>ア 卒業時におけるCEFR B1レベル相当は49.3%、B2レベル以上は5.5%であり、目標はほぼ達成できた。今後は評価基準を再検討し、継続して英語の運用能力の育成を図る。(○)</p> <p>イ 外部講師による講演会は延べ3回実施した。生徒の満足度も100%と高く、今後も高大連携を含めて実施を継続する。(◎)</p> <p>ウ 国公立、難関私立大学全学科合格者数95名 今後、進学者数については学科によらず全体の項目として扱う。(○)</p>
	(6) 専門科の取組み。【理数科の教育活動の充実】	<p>ア 自然現象を科学的な視点でとらえ、科学的な知識・実験技術を身に着けるために、1年生の理数実習(野外観察実習も含む)にて実験・体験学習を行う。</p> <p>イ 理数実習により、情報をまとめ、表現力を鍛えるために、各実習後のまとめの発表を2回以上行う。</p> <p>ウ 科学的な知識の充実をはかるため、1年生と2年生において、年に1回は大学教授による講演会および施設見学をそれぞれ実施する。</p> <p>エ 課題研究(理数探究)により、得た知識からの応用力を養い、情報をまとめ表現力を鍛えるために研究成果の校内での発表を2回は行う。</p>	<p>ア・イ・ウ 3学年 理数科の学校教育自己診断にて、「理数科の教育活動を通して、科学的な知識・技術が身についた」の指数を70%以上にする。[新規] ・課題研究を履修した学年の理数科生徒(R5年度は2年生と3年生)対象の学校教育評価アンケートにて、「理数科の教育活動を通して、科学的な知識・技術が身についた」の指数を70%以上にする。[新規]</p> <p>エ 課題研究を履修した学年の理数科生徒(R5年度は2年生と3年生)対象の学校教育自己診断にて、「理数科の教育活動を通して、科学的な知識・技術を応用的に活かすことができた」の指数を70%以上にする。[新規]</p>	<p>ア 野外観察実習は計画通りに実施。</p> <p>イ 理数実習での各実習後の振り返り・発表も計画通りに実施。</p> <p>ウ 1・2年生において大学教授による講演会、施設見学をそれぞれ実施した。3学年及び2・3学年ともに学校教育自己診断「理数科の教育活動を通して、科学的な知識・技術が身についた」の肯定率は85.5%となり目標を上回った。(◎)</p> <p>エ 課題研究(理数探究)において中間発表を実施、進捗度合を確認した。最終発表を3年生は12月に、2年生は1月に実施。学校教育自己診断「理数科の教育活動を通して、科学的な知識・技術が身についた」の肯定率は85.5%となり目標を上回った。(◎)</p>
	(7) リーディングGIGAハイスクール指定校としての取り組み	<p>ア 情報の授業や探Q(総合的な探究の時間)を中心に生徒1人1台端末の積極的な利活用をめざす。</p> <p>イ 出席停止生徒や臨時休業の際にオンラインを活用した学びの保障を100%実施する。</p> <p>ウ 学校行事や部活動での1人1台端末の有効的な利活用をめざす。</p>	<p>ア・イ・ウ 学校教育自己診断において「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の肯定的回答をR6には80%以上にする。[R4年度より実施]</p>	<p>ア ICT活用委員会が教員研修を実施、多くの授業で1人1台端末の利活用が進んだ。また、リーディングGIGAハイスクール指定校として公開授業も実施した。</p> <p>イ 臨時休業等の際Web会議システムで授業の配信、学習支援クラウドサービスにより課題の配信を行うなど学びの保障を行った。</p> <p>ウ 生徒会選挙、行事の振り返り、部活動等で1人1台端末の有効活用を図った。学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の指数は81.6%で目標を達成した。(○)</p>
3 チーム「いちりつ」としての課題解決にあたる教員集団の確立	(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり	<p>ア 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断(保護者)において「生徒のことにについて、適切に相談に応じてくれる」の指数を80%以上とする。[R4 82.0%]</p>	<p>ア 学校教育自己診断(保護者)「生徒のことにについて、適切に相談に応じてくれる」の指数は82.7%となり目標を達成した。(○)</p>
	(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化	<p>ア 時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。</p>	<p>ア 時間外勤務の実態を丁寧に把握し、個別の業務負担を減少させる。教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、45時間を目標とする。[R4 約50時間]</p>	<p>ア 時間外勤務時間の縮減のため、定時退庁日の設定や家庭連絡におけるICT活用など取り組みを進めた。教職員の平均時間外勤務時間は、44.7時間となり目標を達成した。今後更なる効率化を進め、時間短縮を図る。(○)</p>